

ベトナム戦争時代に良心の兵役拒否をされた方です。

指摘の通りだ。ベトナム戦争中の七三年に徴兵制度が廃止された。今は「ボーパディ・ドラフト（貧困者の徴兵制度）」に取って代わったといわれる。ブッシュ政権は、軍への勧誘のために年間四十億（約四千八百億円）の膨大な予算を費やしている。勧誘の対象は、なかなか成果が上がらない中流層以上の地域ではなく、黒人や中南米系の子供たちをターゲットにしている。貧富の差という社会的矛盾が、戦争に凝縮されている。

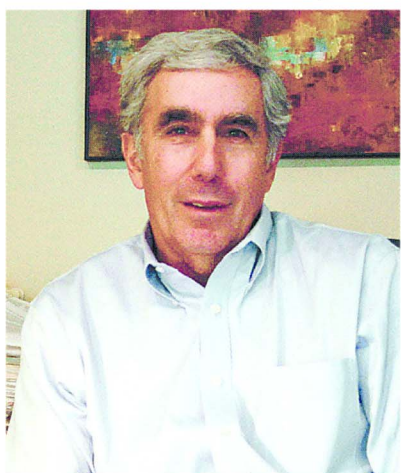
博士号を取得した一九六八年に徴兵され、ベトナム行きを命じられた。私はベトナム戦争は、ベトナム人が求める独立戦争であり、参戦することとは違法で、不道德なことだと考えた。かの国の子供たちをはじめ、膨大な数の非戦闘員を殺傷していることにも我慢ならなかった。「自衛のための先制攻撃だ」というイラク戦争は、明らかに米憲法にも国際法にも違反している。政治指導者が決定した誤った戦争に対して、兵士は加しない権利を有している。

批判的な目養う

一回の米国取材で私は、イラク派遣に反対し、軍法会議にかけられている陸軍中尉（29）を取材しました。処罰を覚悟で勇気をもってイラク戦争に反対する少数の兵士がいる一方で、生活のために入隊した貧困層の多くの若者が、兵器の廃絶、国際法とそれを

核時代平和財団会長

デービッド・クリーガー氏(65)



進む拡散核の脅威増す 軍縮へ日本が先導役を

履行するための国際機関の強化、そして若者たちが平和な世界を築いてゆく主体となるよう積極的に教育を行うことだ。毎月平均四、五回は高校などへ出かけて戦争の実態や核戦争が起こればどうなるかなどについて話している。

若者たちの反応はどうですか。

広島・長崎の被爆直後の惨状を示す写真など、われわれが独自につくった視覚教材によるよう積極的な教育を行うことだ。生徒らにとっては初めて知ることは多い。次々と出される質問に答える形で、彼ら自身に考えさせるようにしている。批判的なものを判断する力を身につけること

私もしばしば日本を訪問しているが、強くそのことを感している。広島・長崎両市には原爆資料館があり、廃虚のパノラマ写真や現物資料には、強く訴えかけるものがある。被爆者の体験談も直接聞ける。被爆地を訪ねる機会もなく、だれもそのことについて教えない。その傾向が強い。しかし、現実の世界は核拡散が進み、核軍縮は停滞したまま。米口を中心に地球上に約二万七千個ある核弾頭のうち、三千五百個はいつでも発射できる態勢にある。核兵器がテロ組織にわたれば、抑止力の考えなど通しない。

軍備競争悪循環

米国では既存の核弾頭をすべて新型核に替える「信頼性のある代替核弾頭（RRW）」計画が進められていて、核開発の拠点であるロスアラモス国立研究所（ニューメキシコ州）を訪ねると「米国は永久に核兵器を手放さない」という意思表示をしているようにも思えます。その気持ちは痛いほど分かちたい。被爆国である日本政府の取り組みをどうみているか。

プロフィール 1942年、カリフォルニア州ロサンゼルス市生まれ。68年ハワイ大学で博士号（政治学）取得。サンフランシスコ州立大学准教授などを経て、82年に非政府組織（NGO）の「核時代平和財団」を創設、会長として今日に至る。核兵器廃絶を求める世界のNGOネットワーク「アポリシヨ2000」で、中心的役割を果たす。著書に「偶発的核戦争の防止」など。